(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3781891号
(P3781891)
(45)発行日　平成18年5月31日(2006.5.31)　(24)登録日　平成18年3月17日(2006.3.17)

(51)Int.Cl.		F I		
A47G 33/00	(2006.01)	A47G	33/00	K
B44C 3/00	(2006.01)	B44C	3/00	R

請求項の数 3　(全 5 頁)

(21)出願番号　特願平10-80104
(22)出願日　平成10年2月20日(1998.2.20)
(65)公開番号　特開平11-235269
(43)公開日　平成11年8月31日(1999.8.31)
審査請求日　平成15年2月10日(2003.2.10)

早期審査対象出願

(73)特許権者　593201958
越後製菓株式会社
新潟県長岡市呉服町１丁目４番地５
(74)代理人　100084696
弁理士　赤尾　直人
(72)発明者　山崎　彬
新潟県長岡市呉服町１丁目４番地５越後製菓株式会社内
(72)発明者　星野　一郎
新潟県長岡市呉服町１丁目４番地５越後製菓株式会社内

審査官　冨江　耕太郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】装飾用鏡餅

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
上下二段に立体成形された鏡餅本体、中間の脚部を介して上下の二段構成であってかつその上側に当該鏡餅本体を載置している台、及び必要に応じて設置した装飾用品に対し、一部又は全てが透明であって、略直方体形状の容器によって前記二段構成の台を容器の側部から横方向に支持した状態にて、当該容器内に収納したことによる装飾用鏡餅。
【請求項２】
装飾用品の全部又は一部を、透明の容器内に収納することに代えて、容器自体の模様として、描いたことを特徴とする請求項１記載の装飾用鏡餅。
【請求項３】
容器の正面側及び上面側を透明としたことを特徴とする請求項１記載の装飾用鏡餅。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、正月等において、各家庭における祭壇等に備える装飾用鏡餅に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
鏡餅は、通常正月等の祭事において、神棚、仏壇等に配置され、装飾をも兼ねて一定期間室内に保存されるが、実際の設置状態は、鏡餅本体、これを載置する台及びエビ、海産

物等の食品による装飾用品、又は扇等の純然たる装飾用品を周囲に付加・配置することによって実現されている。

【０００３】

しかしながら、このような設置状態は、多少煩雑であると共に、配置した後において、常に安全な状態にて維持される訳ではない。

【０００４】

しかも、前記のような設置状態を他の室内の場所に移動自在の状態とすることは、事実上不可能又は極めて困難であると共に、自動車等の移動物体中において、装飾品として配置することは、事実上不可能である。

【０００５】

即ち、装飾用の効果を発揮する鏡餅として、更にハンディな構成が望まれているにも拘らず、このような構成は存在しなかった。

【０００６】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、従来技術による装飾用鏡餅の前記の如き欠点を克服し、移動自在に配置でき、しかも安全な状態を維持できる装飾用鏡餅の構成を提供することを課題とするものである。

【０００７】

【課題を解決するための手段】

前記の課題を解決する為、本発明の構成は、上下二段に立体成形された鏡餅本体、中間の脚部を介して上下の二段構成であってかつその上側に当該鏡餅本体を載置している台、及び必要に応じて設置した装飾用品に対し、一部又は全てが透明であって、略直方体形状の容器によって前記二段構成の台を容器の側部から横方向に支持した状態にて、当該容器内に収納したことによる装飾用鏡餅からなる。

【０００８】

【発明の作用】

本発明の装飾用鏡餅１は、図１に示すように、一部又は全てを透明とする略直方体形状の容器４に収納されている点を特徴点としている。

【０００９】

即ち、内部に鏡餅１本体及びこれを載置するために設けた上下の二段構成であって、中間に脚部を有している台２、更には必要に応じて付加されている装飾用品３を、一部又は全てを透明とする略直方体形状の容器４に収納し、かつ当該容器４を所望の場所に置くことによって、任意の場所において、装飾用鏡餅１の鑑賞を行なうことができる。

【００１０】

そして、一部又は全てを透明とする容器４による素材を採用しているのは、外側からの鑑賞を可能とするためであるが、前記の「透明」状態としては、必ずしも無色透明に限定される訳ではなく、有色透明の場合も採用され得る。

【００１１】

但し、鑑賞の便宜の為には、少なくとも、頻繁に鑑賞が行われる正面方向及び上面方向が透明であることが好ましい。

【００１２】

容器４を携帯することによって、所望の場所に本発明の装飾用鏡餅１を鑑賞するためには、容器４に収納された鏡餅１本体、台２及び必要に応じて付加されている装飾用品３は、容器４内において、上下方向及び横方向に移動せずに、しかも、鏡餅１本体が台２に安定した状態にて支持されていることが便宜に資する。

【００１３】

この為、本願発明においては、横方向への移動を台２を容器４の側部周囲から支持することによって防止し、上下方向の移動については、台２を下方から支持する一方、上方向からの支持は、容器４又は容器４内に設けた支持用具によって、鏡餅１本体、又は必要に応じて付加されている装飾用品３と接触することによって、前記上方からの支持を実現し

、ひいては、前記上下方向の移動を防止することが多い。

【００１４】

以下、実施例によって本発明の具体的構成を明らかにする（尚、以下の実施例では、容器４の全てが透明である場合について説明するが、一部が透明の場合においても実施例の具体的な構成において変わりはない。）。

【００１５】

【実施例】

実施例は、第１図（ａ）及び（ｂ）に示すように、容器４に、装飾用品３を描いた場合の実施例を示す。

【００１６】

図１では、みかんのような、立体感を有する装飾用品３は、鏡餅１と一体をなして付加した状態とし、しめ縄又は扇のような、平面形状のものは、必ずしも鏡餅１又は台２に付加せずに、容器４に描くことによって、充分装飾効果を発揮することが可能である。

【００１７】

以上のように、本発明には、様々な実施態様が存在するが、本発明の構成は、このような実施態様に限定される訳ではない。

【００１８】

また、鏡餅１本体としては、当初から二段に形成された裸の鏡餅１の場合、及び二段のプラスチック容器４に真空包装された鏡餅１の何れをも採用することができる。

【００１９】

【発明の効果】

以上の如き構成による本発明においては、一部又は全てを透明であって、略直方体形状の容器によってその側部から横方向に支持されており、かつ中間の脚部を介して二段構成となっている台に載置され、かつ必要に応じて、装飾用品が付加されている装飾用鏡餅を任意の場所に携帯し、かつその外観を鑑賞することができる。

【００２０】

これによって、前述した従来の装飾用鏡餅の問題点を全て解決しており、その意味において、本発明の価値は絶大である。

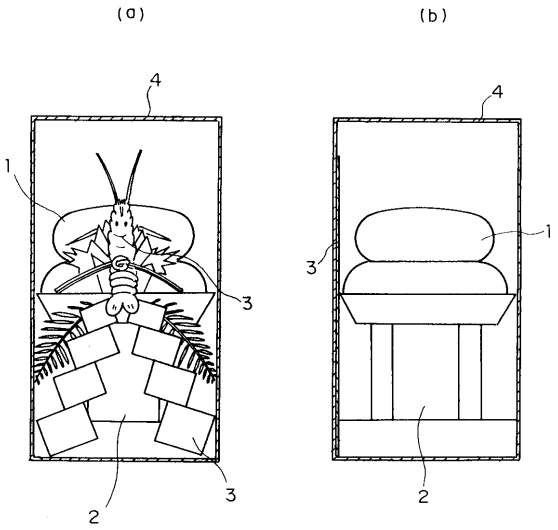
【図面の簡単な説明】

【図１】　本願発明の実施形態及び実施例の構成を示しており、（ａ）は正面図であり、（ｂ）は側面図である。

【符合の説明】

１：鏡餅
２：台
３：装飾用品
４：容器

【図１】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平９－１０３３５７（ＪＰ，Ａ）
特開昭６１－１８１３４８（ＪＰ，Ａ）
実開昭５７－１９９５８５（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６０－１０５３４３（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A47G 33/00
B44C 3/00